

# 美瑛富士携帯トイレシステム試行的導入・2年目の報告

石田 美慧（環境省 東川自然保護官事務所）

## 1. はじめに

美瑛富士避難小屋及び野営指定地にはトイレがないため、し尿やティッシュの残置、排せつ場所へ至る植生の破壊や裸地の拡大が問題となってきた。平成26年度に山のトイレを考える会から携帯トイレ導入の提案がなされ、美瑛富士トイレ管理連絡会（山のトイレを考える会事務局、北海道山岳団体で構成）が発足し、携帯トイレ用ブースが設置された場合、同連絡会により維持管理が行われることとなった。また、回収ボックスやし尿の処分等について美瑛町と上富良野町の協力も得られることとなった。このため、環境省では、平成27～28年度に携帯トイレ用ブースを試行的に設置するとともに、携帯トイレに関する登山者の意識調査を実施した。

## 2. 平成28年度調査の概要

### (1) アンケート調査期間

7月～9月中で利用者が多いと考えられる日を14日間選択し、美瑛富士避難小屋において登山者に対する対面式のアンケート調査を行った。全体で212名から回答を得た。

### (2) 平成27年度調査との違い

平成27年度の調査は美瑛富士登山口で実施しており、登山口を利用しない縦走登山者の意識調査が十分に行えなかったことから、28年度調査は避難小屋で調査を実施した。

### (3) アンケート調査結果

#### 【登山コース】

- ・「オプタテシケ山往復」が52.9%で最多。
- ・美瑛富士登山口を登山口として利用した人は67名、下山口として利用した人は58名。登山または下山で美瑛富士登山口を利用した人は72名で回答者の34%

#### 【往復・縦走】

- ・往復登山グループ（オプタテシケ山往復、美瑛富士往復）132名
- ・縦走登山グループ（十勝連峰縦走、大雪・十勝縦走）64名（回答者の30%）

#### 【日帰りか宿泊か】

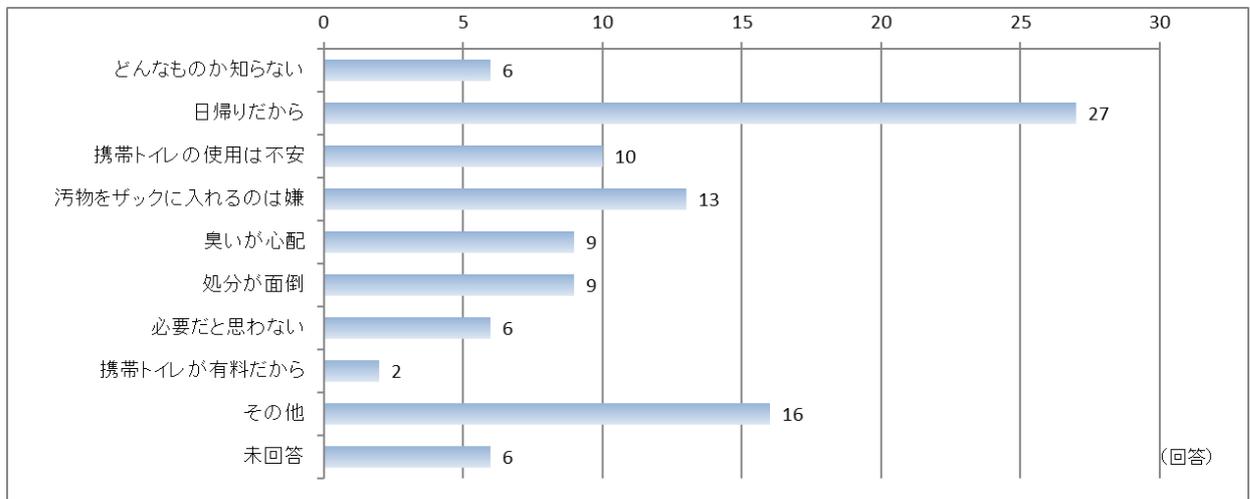
- ・宿泊登山は回答者の6割。
- ・美瑛富士避難小屋及び、美瑛富士避難小屋野営指定地の宿泊者数は105名（回答者の49.5%）。

#### 【携帯トイレ携行の有無】

- ・回答者の63.7%が携帯トイレを携行していた。
- ・往復登山グループの62.1%、縦走登山グループのうち71.9%が携行しており両グループの携行者の割合に大きく差はない。

【携帯トイレを携行していなかった理由】

- ・携帯トイレを携行していなかったと回答した人の理由の最も多いものは「日帰り」だからという回答で、「汚物をザックに入れるのは嫌」という理由も多い。
- ・携帯トイレを携行していない理由の中で、「携帯トイレの使用は不安」、「汚物をザックに入れるのは嫌」、「臭いが心配」、「処分が面倒」など、回答数（104 中 41）の約 4 割が携帯トイレに対する不安についてであった。とりわけ縦走登山グループで同じく不安感についての回答は 29 回答中 14（48.2%）であった。



(携帯トイレを携行していなかった理由「平成 28 年度美瑛富士携帯トイレブース利用状況調査業務」)

【普及の取組の認知】

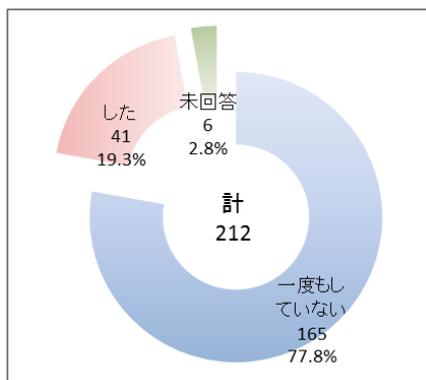
- ・回答者の 7 割が知っていた。(往復登山グループ 70.5%、縦走登山グループ 70.3%)

【小屋型ブース利用の意向】

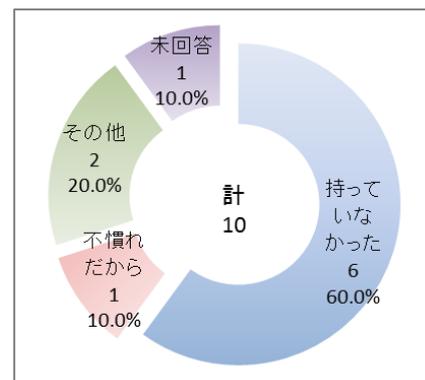
- ・回答者の約 7 割が、小屋型ブースが設置されれば携帯トイレを使用する意向を示した。

【登山中の排便】

- ・山中での排便は 2 割が「した」と回答。排便をした場所について、携帯トイレを利用した人が 6 名(※注:携帯トイレブースに設置した数取機の数値は 179 であった。)、利用しなかった人が 10 名。そのほかは他の避難小屋のトイレを利用。
- ・「携帯トイレを使用せず野外で排泄した」理由として、「携帯トイレを持参していなかった」が 6 名、「不慣れだから」が 1 名。そのほか 2 名は「時間が間に合わなかった」との回答。



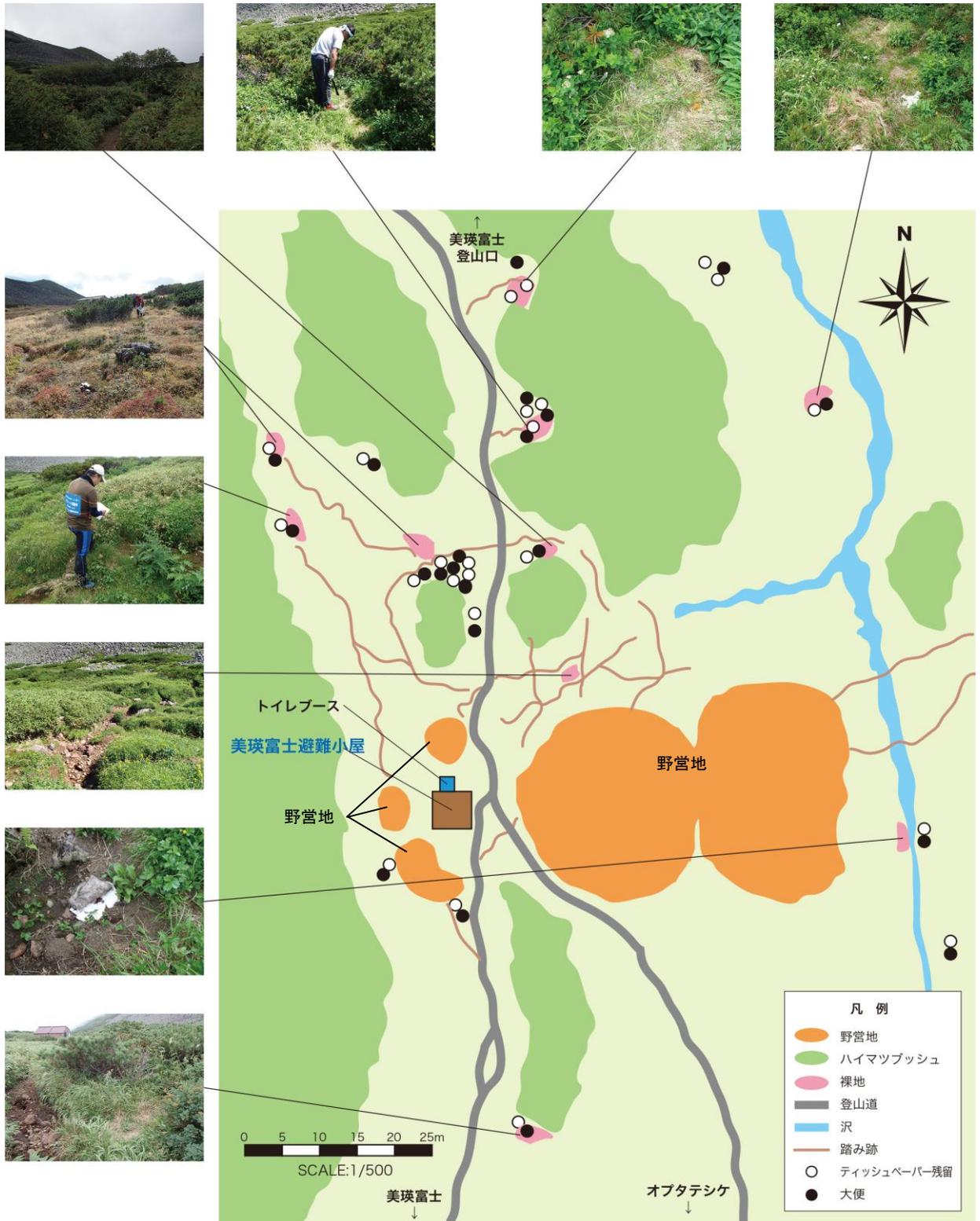
(登山中の排便の有無「平成 28 年度美瑛富士携帯トイレブース利用状況調査業務」)



(携帯トイレを使用せず野外で排泄した理由「平成 28 年度美瑛富士携帯トイレブース利用状況調査業務」)

(4) 周辺環境の状況

避難小屋・野営地北側に踏み分け跡およびティッシュペーパー・排泄物が多数見られ、また沢の方向へ続く踏み分け跡も確認された。



美瑛富士避難小屋周辺環境調査 見取り図

(※写真付き箇所が裸地)

### 3. 2年間の調査結果の評価

- ①美瑛富士避難小屋を経由する登山者の携帯トイレの認知度や持参する割合は高い。
- ②携帯トイレ利用者は確実におり、その分の周辺環境への排出低減効果はあった。
- ③しかし、野外で排せつする者が一定程度おり、それにより踏み跡が残り、トイレゴミが捨てられる状況が続いていることから、この2年間だけでは周辺環境の改善はそれほど進んでいない。
- ④野外で排泄した理由として携帯トイレを持参していないことが挙げられており、また、未だ携帯トイレに対する不安も大きいことから、利用者の意識を改善し、携帯トイレの普及率を上げることが、環境改善につながると考えられる。

### 4. おわりに

関係機関・団体と協力し携帯トイレの普及啓発を継続することにより、携帯トイレブース設置の効果が表れることが期待できるため、平成29年度もテント型携帯トイレブースの設置及び維持管理の試行を継続する方向で検討している。